

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習2	担当教員	尾西 教彰 小畑 克典 島津 太一 近藤 のぞみ 石井 路子 野津 直樹 深澤 南土実 河村 竜也 崔 光雄 寺田 卓矢 岡元 ひかる 小島 寛大 安藤 竜 島村 和秀 山谷 典子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年 第2クォーター		
講義内容	<p>芸術文化・観光プロジェクト実習1において把握した全体像をふまえ、グループに分かれて基礎的な知識・技能を学ぶ。具体的には、日本国内の国際的な演劇祭の運営スタッフとして、個別公演やイベントの企画・運営実務や、演劇鑑賞者の観光周遊を促進する広報宣伝業務等の実務を行うグループと、海外の国際的な演劇祭を現地調査し、企画・運営の方法を学ぶグループに分かれて実習を進める（ただし、実習先の受入都合により、いずれかの実習のみの実施となる可能性もある）。</p> <p>また、中間時点で課題等を共有する場を設定し、芸術文化と観光の双方の視点を生かした技法についてアイデアを出し合う。これによって、スタッフワークの実践力の向上や演劇祭の国際比較経験を通じて、芸術文化・観光プロジェクトが生み出す新たな価値への理解を深める。</p>		
到達目標	<p>① 演劇祭の全体像をふまえ、芸術文化分野または観光分野の実務や国内外における実態について基礎的な知識・技能を身につけることができる。</p> <p>② 芸術文化分野と観光分野それぞれの立場から他の実務との連携についてイメージし、芸術文化・観光プロジェクトが生み出す新たな価値を認識することができる。</p>		
授業計画	<p>事前学習として、芸術文化・観光プロジェクト実習1において把握した演劇祭の全体像をふまえ、自分の関心分野を絞り込みながら、実習グループの希望調査に回答する。実習グループの決定後は、実習指導者等との打ち合わせ（場合によりオンラインも活用する）をふまえた実習計画書を作成する。</p> <p>実習中は、演劇祭の運営または調査実務に従事し、実習指導者による指導・助言を受けながら、基礎的な知識・技能を学ぶグループと、海外の国際的な演劇祭を現地調査し、世界水準の芸術文化・観光プロジェクトの成り立ちと現状への理解を深めるグループに分かれる（ただし、実習先の受入都合により、いずれかの実習のみの実施となる可能性もある）。いずれのグループも芸術文化分野と観光分野双方の視点を生かし、運営についてシミュレーションを行い、具体的な実務やリスクを予想して対応を考えたり、観客に対して観光情報を提供する仕組みを検討しながら実習を進める。</p>		

	<p>中間時点及び最終日には、芸術文化と観光の視点から、学生による報告と実習指導者等との意見交換会を実施する。</p> <p>事後学習として、学生は完了報告書を作成する。</p>
事前・事後学習	参加する学生は必ず事前説明会等には出席し、定められた様式で、実施計画書、日報、完了報告書を作成する。
テキスト	特になし。
参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準	実習の態度 (40%)、日報 (30%)、実習報告書・プレゼン (30%)
履修上の注意 履修要件	芸術文化・観光プロジェクト実習1を履修済であること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、志望理由等をもとに選考を行う。